別紙２（学校記入用）

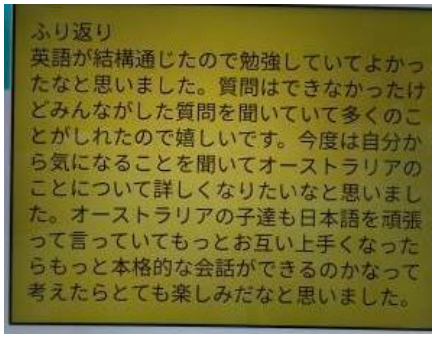
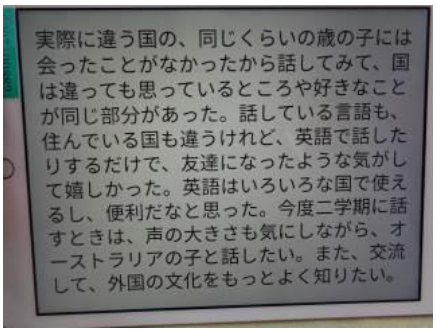
＜学校名＞　越谷市立明正小学校
＜所在地＞　越谷市川柳町一丁目 401 番地
＜電　話＞　048-987-7560
＜本事例の特徴＞
　WEB 会議システム「Webex」を活用し、本校 6 学年の児童とオーストラリア現地校の児童が英語及び日本語でのリアルタイムオンライン交流を行う。

＜具体的な取組＞

　各学期に 1 回ずつ Web 会議システム「Webex」を活用してオーストラリア現地校（Emu park state school と Frenchville State School の 2 校）の小学生とオンラインでリアルタイム交流をしている。本校の児童は外国語として英語を学習し、オーストラリアの児童は日本語を学習しているため、双方の児童が学んだ第 2 言語の成果を披露したり、お互いの文化や習慣、学校行事、流行、好きなものなどについて伝え合ったりする場として活用している。

　1 学期の交流では、お互いが初対面であったことから、一人一人の児童が“Hello. My name is ○○. I like ○○. I can ○○.”とポスターを見せながら簡単に自己紹介をしたり、1 人 1 つオーストラリアの児童の好きなものや誕生日に欲しいもの、オーストラリアでおすすめの場所等について質問をしたりした。また、オーストラリアの児童も習った日本語を使っての自己紹介と日本語でのロールプレイなどを披露した。お互いが第 2 言語を使いながら、画面の向こうにいる相手に熱心に伝えることを通して、「がんばって。」“Good job.”等自然とお互いを励ましあったり褒めあったりすることができた。
　2 学期の交流では、1 学期と 2 学期の学習で扱った「地域のことを伝えよう」と「思い出を伝えよう」で学んだ表現を使って学校や地域の行事、日本のおすすめの場所の紹介をした。その際に運動会でソーラン節や音楽会で演奏した合奏や合唱を披露したり、修学旅行や林間学校については、タブレットで写真を見せたりしながら相手にもイメージしやすいように工夫して伝えていた。七夕や節分、書初めなどの日本ならではのユニークな行事についてはカメラの前で実演を交えて紹介をした。

別紙２（学校記入用）

＜成果＞

いずれも各学期末に交流の時期を設定しているので、本校の児童は普段の基礎的なインプットやアウトプット学習(単語・文法・発音の習得、スピーチ練習)の段階から、「オーストラリアの友達に向けて伝える」という明確な相手意識と目的をもって意欲的に学習に臨むことができた。ICT の活用により、直接リアルタイムで同年代の他国の友達と交流できることで、外国語学習のモチベーションの高まりだけでなく、国を超えて世界中の人と心で繋がることができた興奮や言語が持つ無限の可能性への気づき等、これからの国際社会を生きる世代の子供たちには不可欠な国際感覚の醸成に繋がった。